



年 組 名前

札幌圏「過度な人口集中緩和」

道、次期総計で初の明記へ

道政運営の中期的な指針として10年に一度策定する「北海道総合計画」の最新版で、道は札幌市を中心とした石狩管内への人口集中について歴代計画より踏み込み、初めて「過度な人口集中を緩和する」と明記する。対象期間の2024年以降の10年間は全道で人口減が加速すると予想される一方、ラピダスの次世代半導体製造開始に伴い札幌圏へのさらなる集中が見込まれる。相矛盾する動きに道はどのような施策を講じるのか。地に足の着いた「大計」が求められるが、早くも疑問符がついている。

具体的施策立案課題に

「過度な集中と考える」。鈴木直道知事は2月下旬の記者会見で、石狩管内への現在の人口集中は望ましくないとの認識を示した。鈴木直道政下で初となる総合計画の策定に当たって見解を整理し、全道人口の4割を札幌が占める一方、179市町村中152市町村が過疎地域に指定されていることを踏まえ、道として初めて現状を「過度」と認めた。

総合計画は自治体が策定する最上位の計画で、道は1977年に道発展計画として策定して以後、ほぼ10年に一度のペースで更新してきた。第5次となる現行計画は2016〜25年度が対象期間だが、不安定な国際情勢を背景に次期計画を前倒しで策定し、今夏の完

成を目指す。中国の日本産水産物禁輸への対応などテーマは多岐にわたるが、加速する人口減も一大論点となる。全道に占める石狩管内の人口割合は1950年の12%（札幌市9%）から2020年に46%（同38%）まで上昇。50年時点の推計では全道人口が382万人に激減する中で55%（同46%）に達するとみられている。集中の要因は、教育や雇用、医療など都市機能が集まる札幌市への道内他地域からの転入超過だ。その規模は年間1万人を超え、府県内から中心都市に移る転入超過として最大。札幌圏への集中は地方部の過疎化と裏表で、歴代総合計画でも課題とされてきた。

全道に占める札幌市・石狩管内の人口推移

※1980～2020年は国勢調査。30～50年は20年の国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所の推計





年 組 名前

① 下の地図は、グラフに緑色で示された石狩管内を示すものです。

に入る市の名前を書きなさい。



※ 地図は石狩振興局HPより参照 石狩のまち - 北海道石狩振興局のホームページ (hokkaido.lg.jp)

② 記事にある文章とグラフの読み取りとして適当なものを二つ選びなさい。

- ア 石狩管内の人口は、2050年まで増え続けると予測されている。
- イ 石狩管内の人口は、2030年には北海道全体の半分程度の数になると予測されている。
- ウ 北海道の人口は、2050年には今の40%程度になると予測されている。
- エ 北海道は今後人口減が加速し、石狩管内に人口が集中すると予想されている。
- オ 2050年の174万人は、この年の石狩管内の人口を予測している数値だ。